(1)観察道具・服装

❶観察道具

持っていると便利なものとして、

- ●双眼鏡
- ●図鑑（小さく持ち歩くのに適した大きさのもの）
- ●観察ノート
- ●筆記用具　　などがあります。

双眼鏡については、倍率があまり高くないもの（8倍程度）が適しています。使い方としては、

- ●眼幅の調整（両目で見て左右の視野が重なり一つの円に見えるようにする）
- ●ピントの調節（ピント合わせリングを回しピントを調節する）
- ●視度の調節（※視度調節リングがあるもの）を行います。

なお、双眼鏡で絶対に太陽を見てはいけません。目を傷めてしまいます。

図鑑は、観察した野鳥を調べることができます。観察ノートは見つけた場所、野鳥の特徴、気がついたこと等を記録しておくと後で調べたり見返したりすることができます。

なお、さらに観察を深めたい場合は、フィールドスコープ（野鳥観察用望遠鏡）があります。

❷服装等

野鳥観察の服装は、特に決まっていません。日焼け、虫刺され、草かぶれなどを防止するためには、長袖、長ズボンの着用、帽子をかぶるなどが良いかもしれません。履物は、履きなれた靴などがよいです。場所によっては長靴も便利です。

(2)野鳥観察のマナー

❶巣には近づかないようにしましょう。

子育ての時期など親鳥はとても神経質です。人が巣に近づくことにより、ヒナへのエサやりをやめてしまったり、巣を捨ててしてしまうことがあります。巣には近づかないようにしましょう。

❷エサやりなど環境を変えてしまう行為はやめましょう。

野鳥は、人からエサをもらったりすると、エサを捕る能力をなくすことになります。また、渡良瀬遊水地の豊かな生態系を乱すことになります。あるがままの自然の姿を楽しみましょう。

❸観察や撮影をする時は場所選びに気をつけましょう。

誰よりも良い場所で観察したい!撮影したい!気持ちはわかりますが、長時間同じ場所を一人占めしたり、他の利用者の通行の邪魔になるような場所はやめましょう。立入禁止区域には入らないようにしましょう。

❹ゴミは持ち帰りましょう。

渡良瀬遊水地の豊かな自然環境を守り、動植物の楽園であることが次世代まで続くようゴミは持ち帰りましょう。

(1)樹林・ヨシ原・草原

❶シジュウカラの仲間：シジュウカラ科

森林性で昆虫やクモなどを捕ります。樹洞にコケなどを使って営巣するほか人工物の隙間なども利用します。渡良瀬遊水地では3種類のシジュウカラの仲間を見ることができます。

シジュウカラ 留鳥 **シジュウカラ科** 【体長】14.5cm

樹林でよく見られる。春先、『ツツピィー』とさえずる。黒い顔に白い頬が目立ち、胸から腹にかけて黒い縦線がある。上面の背に黄緑色がある。

ヒガラ 留鳥 **シジュウカラ科** 【体長】11.0cm

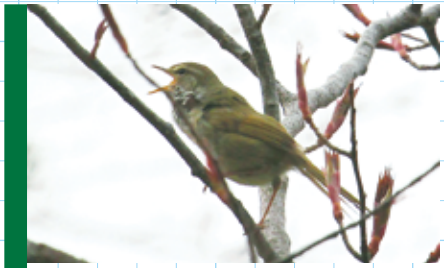
樹林で見られ、カラ類で最も小さい。頭は黒く、額や頬は黄白色、背と腹は茶褐色。堅い木の実を両足ではさみ、くちばしで割って食べる。

ヤマガラ 留鳥 **シジュウカラ科** 【体長】14.0cm

樹林で見られ、頭は黒く、額や頬は黄白色、背と腹は茶褐色。堅い木の実を両足ではさみ、くちばしで割って食べる。

❷ウグイス、スズメの仲間：ウグイス科、スズメ科

渡良瀬遊水地ではウグイスやスズメは一年中見られます。



ウグイス 留鳥 **ウグイス科** 【体長】14.0cm～15.5cm

春から夏にかけて木の中間部で盛んにさえずる。冬期には、ヨシや水辺の樹林の茂みで見られ、地鳴きは『ジャッ、ジャッ』。

スズメ 留鳥 **スズメ科** 【体長】14.5cm

一年中見られ、稿染や建物の隙間に巣を作っている。

ニュウナイスズメ 漂鳥 **スズメ科** 【体長】14.0cm

「ニュウ」はほくろのことで、ほくろの無いスズメの意味。越冬するものの他、4月中旬頃、谷中湖周辺の樹林を通過する群れを見られる。